

< 実践事例 あきる野市立一の谷小学校 >

1. 取組・活動名

「伝統芸能の体験を通して郷土を愛する心を育てる」

2. 取組・活動のねらい

- 一人一人が気持ちを込めて伝統芸能を発表することで、伝統芸能に親しみ、表現する楽しさを味わう。
- 地域に伝わる伝統芸能の良さを再認識し、郷土を愛する心や誇りをもって豊かに生活しようとする心を育てる。
- 上級生から下級生に芸を教えることで、伝統を受け継ぐ心を育てる。
- 練習や発表を通じて、保護者や地域の人々との連携を深める。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・3年生23時間、4・5年生20時間、6年生26時間」

4. 実施上の工夫

- ・毎年、学年ごとに決まった演目を発表することで、見通しをもって取り組む。
- ・下学年は上級学年への憧れを抱き、上級学年は下学年の発表を見て過去の体験における感動を想起できるようにする。
- ・「引継ぎ会」を行うことで、伝統の素晴らしさを共有し、引き継いで行くことの大切さを学ばせる。
- ・「伝統・文化ファイル」に学習の記録を綴ることで、6年間の体験と学習を積み重ねていく。

5. 本取組・活動の内容



「引継ぎ会」

- ・伝える学習では、児童が個々にもっている「伝統・文化ファイル」を活用し、伝える前に昨年度の演目を振り返り、教え伝えるために演目の「コツ」についてまとめる。
- ・教える学習では、教えてもらったコツをしっかりと書きとめ、実際に動いて覚える。
- ・教える立場の難しさを体験することによって、教わる立場のときに、より真剣になって学ぶ姿が見られた。6年生は、伝統・文化発表会後に「四つ花」を5年生に引き継いで6年間の学習のまとめとなる。



「保存会の方からの指導」

- ・児童同士の引継ぎを終えた後に、保存会の方々から本格的な指導を受けた。
- ・保存会の方の笛が入ると、一気にお囃子の雰囲気になり、また、保存会の方に目の前で動きを見せていただくことによって、少しでも近づけようと真似をするなど、集中して学ぶ姿が見られた。
- ・笛と合わせる難しさを感じ、児童から「もう一回お願いします。」の声は何回も出るほど、真剣に取り組んだ。



「伝統・文化発表会」毎年、1月下旬に行っている。

- ・1年生（囃子）「にんば」バケツ太鼓
- ・2年生（囃子）「にんば」ツケ太鼓
- ・3年生（囃子）「にんば」のリズムで「おかめ・ひょっとこ」の創作の踊り
- ・4年生（囃子）「屋台」のリズムで「天狐」の創作の踊り
- ・5年生（獅子舞）「御神楽」
- ・6年生（獅子舞）「四つ花」



6. 成果

- ・囃子では、太鼓、鐘、踊り、獅子舞では獅子と花笠など、一つの演目でそれぞれの役割を演じるが、それにより、みんなで創り上げると意識が高まった。
- ・保存会の方から直接指導を受けることで、自分の課題を見出し、その課題を克服することでより良いものを目指そうとする意識が高まった。
- ・毎年、学年ごとに決まった演目を発表することで、下学年は上級学年の発表を見て憧れを抱き、また、上級学年は下学年の発表を見て過去の体験における感動を想起させることができた。
- ・学年間で行う「引継ぎ会」の学習では、引き継ぐ立場、引継ぎを受ける立場と両方体験することで、伝統の素晴らしさを共に高め、引き継いでいくことの大切さを知ることができた。